

学術フォーラム開催のご案内
～東日本大震災と報道メディア～

(開催趣旨)

今年3月11日、東北・関東地域を襲った東日本大震災は、その後の大津波とともに、太平洋沿岸部に未曾有の被害をもたらした。この状況は、国内外の人々にメディアを通じて届けられ、まさに国民的な—そして世界的な—災害として経験されることになった。

テレビや新聞などマスコミは、地震直後からいち早く特別体制を組み、被災状況、特に福島原発の被害を伝える臨時番組を放送し続けた。インターネット上ではツイッターやブログ、USTREAMなどのソーシャルメディアを通じて被災状況の情報交換が活発に行われた。こうした情報の渦に、海外のテレビや新聞の情報が流れ込み、震災直後のメディアは、それ自体未曾有の洪水状態になった。その一方で、被災地の大部分は、こうした基本的な情報アクセスからも取り残され孤立を強いられた。

本シンポジウムは、この東日本大震災に対して報道メディアがどのように機能したのかを検討するものである。マスメディアはどのように災害を報道したのか。ジャーナリズムの役割は何か。ソーシャルメディアは災害時にどのように働いたのか。そして、今日メディアの「公共性」とは何なのか。社会学者、メディア・文化研究者の立場から今回の災害とメディアの関係を検討するとともに、今後のあり方について緊急提言したい。

- 1 日時 平成23年5月21日(土) 13時00分～16時00分
- 2 主催 日本学術会議
- 3 会場 日本学術会議講堂 会場リンク (<http://www.scj.go.jp/ja/other/info.html>)
- 4 お申込み 定員300人・参加費無料 日本学術会議ウェブサイト申込フォーム (<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>) または、FAXにてお申し込み下さい。(定員に達し次第締切りとさせていただきます。)

(プログラム)

- 13:00-13:15 主旨説明
東京大学大学院情報学環教授 日本学術会議連携会員 吉見 俊哉
- 13:15-13:30 報告1:福島原発とメディアが伝えないもの
原子カムラのフィールドワークから
東京大学大学院学際情報学府 開沼 博
- 13:30-13:45 報告2:震災と科学ジャーナリズム
早稲田大学政治経済学術院准教授 田中 幹人
- 13:45-14:00 報告3:震災とメディア— 何によって何が語られたか
学習院大学法学部教授 日本学術会議連携会員 遠藤 薫
- 14:00-14:15 報告4:災害と情報格差:在日外国人に対する情報提供について
法政大学社会学部教授 日本学術会議連携会員 田嶋 淳子
- 14:30-14:50 討論
早稲田大学教育総合科学学術院教授 日本学術会議連携会員 伊藤 守
東京芸術大学音楽学部准教授 日本学術会議連携会員 毛利 嘉孝
- 14:50-15:50 討議
吉見、開沼、田中、遠藤、田嶋、伊藤、毛利
- 15:50-16:00 閉会挨拶
東京大学大学院情報学環教授 日本学術会議連携会員 吉見 俊哉